

H27 年次 農業分野農村環境科目 選択科目Ⅱ-2-1 農業農村整備では、環境との調和に配慮して、農地・農業用水利施設等の調査、計画等を行うこととされている。あなたが、生態系に配慮した農地、農業用水利施設等の調査、計画業務の責任者として業務を進めるに当たり、下記の内容についてのべよ。

(1) 業務に当たり検討すべき内容 (2) 業務を進める手順 (3) 業務を進めるに当たって留意すべき事項 (2枚以内 横 24×25 600\*2 1200字以内)

(1) 業務に当たって検討すべき事項

農業用施設は、多くの野生生物が生息・生育する生物多様性の豊かな空間を創出してきた。しかし、農業の近代化を進め、経済性や効率性を優先し農地・水路

5 を整備した結果、野生生物の生息・生育環境の質が低

下を招いていることは否定出来ない。

このため、今後は、生態系に配慮した農業用水利施設等整備するため、①ハード面では、野生生物との共生が可能な施設、②ソフト面では、整備後の生物多様

10 性等を維持するため、地域力による管理システム、などの検討が必要となっている。

(2) 業務を進める手順

1) ハード面

ミクロ的には、用水から、湛水・排水に至る一貫した

15 環境保全対策を検討する。

具体的な整備項目として、生物が水路と水田を自由に行き出来る階段工やため池と水路を結ぶ魚道整備、隠れ場機能を具備した水路整備などがある。

また、マクロ的には、森・川を通じた水系全体のネ

20 ットワーク構築を検討する。

具体的な整備項目として、中山間地域に於いては、集落周辺の里山からからの有用な栄養塩類を供給させるため、広葉樹の植林や間伐による森の手入れ、平野部の水路では畦畔林帯や多自然型護岸の整備などを整

25 備する。

1) ソフト面

衰退した地域力を回復させ、地域コミュニティによる農業基盤の維持管理が生態系の保全、再生、創出に繋がるのがこれまでの事例でも明らかになりつつあ

30 る。

具体的な取り組みとして、アダプトプログラムテムの導入がある。このシステムは、地域に必要な農業基盤の比較的簡易なものは地域住民自らで維持・保全管理し、行政側は活動のサポートを行うものである。そ

35 の効果は、1)参加者の施設への愛着が創出され維持管理への参加促進が可能、2)維持管理に掛かる経費が節減され地域住民の経済的な負担軽減が図られる等がある。

(3) 業務を進めるに当たって留意すべき事項

40 ・順応的管理手法の導入

野生生物は様々な環境要因により機能を損ないやすい脆弱性を持っている。そのため、継続的なモニタリングの下、柔軟に機動的・能動的に適切な事業の実施方法や管理手法を採用して行く必要がある。

45 そのため、対策の途中段階または完了後においてモニタリングを継続的に実施し、その結果に応じて事業のあり方を見直していく、「順応的管理手法」を導入すること留意して、計画業務を進めるべきである。

—以上—